

新聞の持つ高い表現力を学ぶ

兵庫県立伊川谷高等学校 校長 衣笠 正人
主幹教諭 福田 浩三

1. はじめに

現在の情報化社会では、ネットに繋がれば各々の志向に合わせた情報が選ばれ提供される。そんな中、網羅性に富んだ新聞を教材として活用することは、生徒の

- ・幅広い分野における興味関心を高める
- ・情報の真偽を含め整理し理解する能力を得る
- ・効率よく効果的に情報を発信する能力を得る

など、今後のグローバル化・情報化社会に必要なコミュニケーション能力の獲得につながるものである。これらを踏まえ本校では以前より NIE 実践に取り組んでいる。本稿では本校における NIE 実践を

- ・1年コミュニケーション基礎（学校設定科目）における実践

- ・3年総合的な探求の時間における実践

に分けて報告する。

なお、実践校助成の新聞6紙（朝日・毎日・読売・日経・産経・神戸）については、購読期間を3紙または6紙が揃うように設定し、生徒昇降口の掲示板に毎朝「今日の朝刊一面」として各紙が比較できる形で掲示した（写真1）。また、過去の新聞については取り置きを行い、授業等への活用の際に使用した。



写真1 新聞一面の比較

2. 1年コミュニケーション基礎における実践

特色選抜入学者 30 名が履修する1年次必修科目「コミュニケーション基礎（週1時間）」において、履修生徒に対し以下の実践を行った。

2-1. 新聞読み方講座（1回）

※他に新聞購読9日間あり

R4.6/20～7/14の期間中の9日間、神戸新聞30部を生徒昇降口に設置し、生徒が教室にて「朝の読書の時間」を利用して新聞に目を通した。また、6/28には新聞読み方講座（神戸新聞 NIE 講師担当）を実施し、新聞の持つ網羅性・一覧性・信頼性など新聞の持つ社会的役割や記事見出しの重要性について学習し、以後新聞を読む際に役立てた（写真2）。



写真2 新聞読み方講座の様子

2-2. 新聞感想文コンクール（夏季休業課題）

夏季休業中の課題として、生徒は読んだ新聞から最も興味・関心をもった記事を選び、その感想文を作成した。自宅で新聞を購読していない生徒については、先の9日間に読んだ神戸新聞の記事を活用した。

生徒は自ら選んだ記事に自分の意見を交えて感想文の形にまとめることにより、より相手に伝わる文章の表現力等について考えた。

提出された新聞感想文は授業担当者が校内選考を行い、2作品を「第13回ひょうご新聞感想文コンクール」に応募した。

2-3. やさしい日本語書き換え講座

(R4.9/13, 9/20, 9/27, 10/4, 10/11 計5回)

これからの社会のグローバル化を見据え、生徒が日常的に、小さい子どもや日本語を母語としない他者の観点で日本語を捉えることを目的

に、「やさしい日本語」を用いた新聞記事の書き換えを行った。

生徒が興味を持った新聞記事（「ひょうご新聞 感想文コンクール」応募用に残った記事を活用）について「やさしい日本語」を用いてA5用紙にまとめ、その発表まで行った。

1回目 「やさしい日本語」講義 (R3.9.13)

やさしい日本語認定講師による講義を通して、多文化共生社会における「やさしい日本語」の必要性について考えた。「やさしい日本語」のポイントとなる「ワセダ式ハサミの法則」（わけて言う、せいりして言う、だいたんに言う、ハッキリ言う、さいごまで言う、みじかく言う）について学習した。

2～4回目 書き換え作業 (R04.9/20～10/4)

生徒が選んだ新聞記事を元に、その伝えたい内容や要約として必要な箇所を選び出し、その内容を「やさしい日本語」を用いてA5用紙に



写真3 新聞購読中の様子

まとめ直した。この際、新聞紙面を参考に、より内容が伝わりやすくなるように見出しや文言、紙面レイアウト等について検討した。書き換え作業は必要に応じ班内での意見交換やタブレットによる調べ学習を効果的に利用した（写真3）。特に生徒は「やさしい日本語」を専門に扱うサイト（伝えるウェブ※）を積極的に活用していた。A5用紙はレイアウトの参考となる薄い罫線やマス目が入った「はがき新聞原稿用紙（（公）理想教育財団より助成）」を活用した。

※伝えるウェブ | やさしい日本語で情報発信
(<https://tsutaeru.cloud>)

5回目 作品発表 (R4.10/11)

A5用紙に書き直した紙面（図1）を用いて、各自が興味を持った新聞記事の発表を行った。始めに班内発表を行い、その後各班より代表者を選出し、その代表者がプロジェクトで拡大提示された自作品の紙面を用いて全体発表を行った（写真4）。発表で生徒は記事の興味を持った点に触れながら書き換え記事の読み上げを行い、書き換え時の工夫点等を説明した。発表を聴いた生徒の感想は、日報に記入させて回収した。

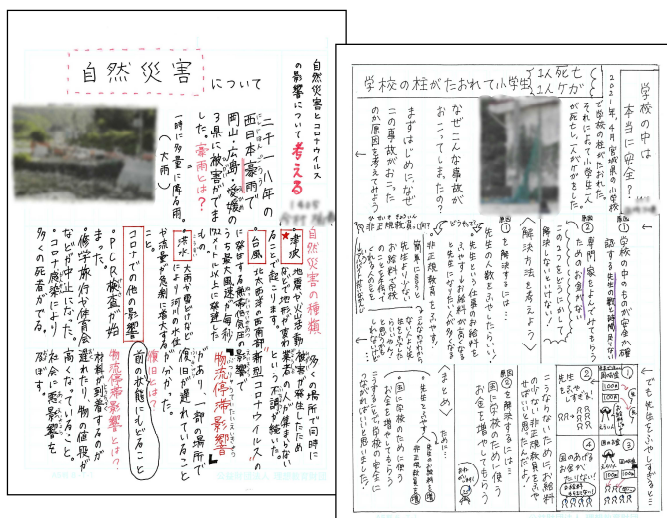


図1 生徒の作品



写真4 全体発表の様子

2-4. 新聞から学ぶSDGs (R4.11/1, 11/8)

新聞記事からSDGsを考える講座（朝日新聞NIE 講師担当）を2回に渡り実施した。1回目は1学年全員（5クラス）が体育館に集まり新聞の読み方、SDGsに関わる記事の抜き出し等を行った（写真5）。2回目は30名を対象に、班ご



写真5 体育館で新聞を読む生徒

とにSDGs学習用付箋を用いて記事を抜き出し、選んだ理由を含めて発表し合った。

3. 3年総合的な探究の時間における実践

3年生は成年年齢が18歳に引き下げられる最初の対象学年であったため、18歳成人をテーマにNIE実践を行った。

3-1. はがき新聞の活用（3年間を通して）

当該学年は1年次より行事の感想文の作成などではがき新聞を頻繁に活用している。活用当初は限られた文章量の中でも目に留まるレイアウトや文章内容にこだわりを持たせた。活用に慣れた段階でタイトル、小見出し、記事の文章表現まで掘り下げて作成を行うように呼びかけた。これらを継続することで、生徒は見出しの付け方や記事の書き方、記事の見せ方に一定の経験を有するようになった。また作成したはがき新聞は廊下に掲示し、生徒間で相互閲覧するため、作品の表現力はその都度向上していった（写真6）。



写真6 はがき新聞の廊下掲

3-2. 科目における実践（R4.9/9）

医療系学校進学希望者のための選択科目にて、「18歳成人のあなたへ」と題した授業（神戸新聞NIE講師担当）を行った。新聞を用いてロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルス、震災等の時事問題について考えた（写真7）。この様子は翌日の



写真7 18歳成人のあなたへ

神戸新聞朝刊（R4.9/10）に記事が掲載された。

3-3. リーガルサポート講座

（R4.6/13, 9/5, 9/12, 9/26, 10/3 計5回）

法律専門機関である一般社団法人より講師5名の協力を得て、「総合的な探究の時間」を活用して3年生（全5クラス）に対しクラス単位で5つの内容の人権講座を実施した。講座の内容は「18歳成人」を主軸とし、5名の講師の専門分野を基に、以下の様に設定した。

- ①少年事件、少年犯罪〔弁護士〕
- ②税金・投資・保険等、社会生活にまつわるおカネの話〔税理士〕
- ③契約上のトラブル事例について〔司法書士〕
- ④インターネット・SNSにまつわる諸問題と近時の裁判例について〔司法書士〕
- ⑤就職・労働に関する基礎知識〔司法書士〕

以後担当クラスを移動することで計5回、講座を実施することで、5クラスすべてがクラス単位で5つの講座を受講した。（表1参照）

表1 リーガルサポート講座実施スケジュール

	1組	2組	3組	4組	5組
6/13	①	②	③	④	⑤
9/5	②	③	④	⑤	①
9/12	③	④	⑤	①	②
9/26	④	⑤	①	②	③
10/3	⑤	①	②	③	④
10/10以降	事後学習（興味関心の高い内容のはがき新聞へのまとめ）				

5つの講座終了後、生徒各自が18歳成人に対するテーマを1つ設定し、その内容をレポートとしてはがき新聞（A5サイズ）にまとめる事後学習を行った（写真8）。このまとめレポートを作成する際、新聞の持つ高い表現力を持った紙面を作成するため、生徒は実際の新聞紙面を参考にした。作成されたリーガルサポート講座のまとめレポートは、非常に読む者の興味関心を引くものが多数あった（図2）。



写真8 まとめ作業の様子

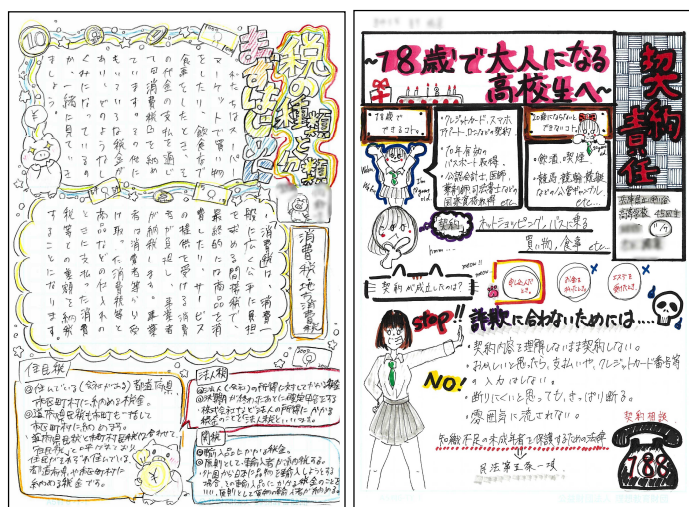


図2 リーガルまとはがき新聞

作成されたまとめレポートは廊下に掲示し、生徒間で

- ・分かりやすいか
- ・独自の意見や思いが伝わってくるか
- ・読みやすいか
- ・まとまっているか

の評価観点を元に相互評価を行った。また、作品はすべて講座を担当した講師が閲覧し、専門家の立場から優秀賞等の評価を行った（写真8）。



写真8 レポート相互評価中の様子

リーガルサポート講座については、担当の講師が教室で講義を行うだけでなく、コラム『リーガ・ルーム-18歳の法の部屋-』を20回に

渡り執筆し学年通信に掲載することで、生徒の事前事後学習および知識の補足を計った（図3）。



図3 学年通信 104号（二面右下にリーガルコラムを掲載）

4. まとめ

本校では以前から NIE 実践を行っていたが、2年前より NIE 実践指定校となったことで、新聞の助成や講師派遣等も受けられ、より実践内容に幅が広がったと感じる。

本校の NIE 実践で重要視していることは、

- ・正しい情報を選び理解する
- ・必要な情報がより相手に伝わる表現法の学習

である。ネット社会においてこれらの能力を備えておくことは、他者とのコミュニケーションを図る上でこれから最も重要視されると考えるからである。

本校での今後の NIE 実践は今後も継続し、「読む」「理解する」「書く」「伝える」ための実践を充実させていく予定である。